

LAに名を残した富豪たち

ジャン・ポール・ゲッティ
ヘンリー・E・ハンテントン
ノートン・サイモン
グリフィス・J・グリフィス

取材・文 = 吉刈 いづみ
撮影 = Tak S. Itomi



いくつものビルからなるGettyセンター

LAに名を残した富豪たち

ジャン・ポール・Getty、ヘンリー・E・ハンティントン、ノートン・サイモン、グリフィス・J・グリフィス。ロサンゼルスに住んでいる人なら、誰でも必ず聞いたことがあるこれらの名前。実際この人たちは何をし、どうなって、ロサンゼルスの各所に名を残したのか？ 今回の特集では、彼らのライフと彼らが残したものについて探っていく。

世界初のビリオネア

〜 Jean Paul Getty

まずは、ブレントウッドの山の上にある巨大な美術館「Getty Center」の創立者として知られるジャン・ポール・Getty。1892年、ミネアポリスで弁護士の子ジョージ・F・Gettyの元に生まれた。1904年、父親が石油ビジネスに関わるために、家族でオクラホマに移住。この石油ビジネスで大金を稼ぎ、家族はそろってロサンゼルスへ来た。その後、南カリフォルニア大学に入ったばかりの息子ジャンに、父親は別の石油会社への投資金を貸した。それを元手に、彼はたった2年で数ミリオンを稼ぎ出し、Getty Oil Companyを設立。これが後のGetty Oilとなる。57年には、『Fortune』誌

で、「生存する最もリッチなアメリカ人」に選ばれ、66年には、「世

界で最もリッチな一般人 (Private Citizen)」として、ギネスブックに登録された。その時の総資産は、1・2ビリオン。彼は、世界で最初にビリオンを稼いだ人物の一人としても知られている。

そんなGettyは無類のアート好きで、自分の資産を使って、世界中からたくさんの絵画や彫刻を買い集めた。Gettyのアートアトコレクションは増え続け、やがて自分の敷地内にギャラリーを設立。しかしそこにも入りきらなくなり、74年、敷地内に2つ目のギャラリーを建設した。それが現在マリブにあるGetty・ビルとなった。結局、Getty本人はGetty・

ビラのオープンを待たずして亡くなってしまい、Gettyが集めた美術品と財産は、Getty財団が受け継ぎ管理することとなった。彼の死後、97年にGetty・センターがオープン。彼の所蔵品は、あの巨大なGetty・センターに入りきらず、Getty・センターとGetty・ビラの2カ所に分けられて展示されることになったのだ。

現在Getty・センターには、世から現代までのヨーロッパの絵画を中心に、アメリカの絵画や写真なども展示されている。建物やガーデン、そしてここから見渡せるLAの街並みも素晴らしい。1日いてもすべてを見つくせないほどだ。Gettyがセカンドギャラリーとして作ったGetty・ビラの建物は、紀元79年にヴェスピオ火山の爆発



巨大な肖像画のコレクションの数々(ハンティントン・ライブラリー)



手入れの行きとどいた中庭(ゲッティセンター)



中庭には、様々なテーマの庭園がある(ハンティントン・ライブラリー)



タペストリーや彫刻などのコレクションも充実(ゲッティセンター)

で灰に埋もれてしまった、ローマ様式の建物「パピルス荘」を再現したもの。展示物は、ローマやギリシア時代の彫刻がメインで、大きな池を配した中庭なども見どころ。この見学は無料だが、オンラインでの事前予約が必要だ。

多角的ビジネスで財を成した Henry E. Huntington

ロサンゼルスには、ハンティントンという名の付くものが多くある。ハンティントン・ライブラリー、ハンティントン・ビーチ、ハンティントン・パーク、ハンティントン・ドライブ。なんとこれらすべてが、一人の人物、ハンリー・E・ハンティントンに由来する。

「ハンリー・ハンティントンは鉄道王」という話は聞いたことがある人も多いはず。彼は、1850年ニューヨーク州生まれ。アメリカで最も有名な鉄道会社サザンパシフィック鉄道の創設者の一人コリス・P・ハンティントン（共に創設した4人の人物たちをビッグ4と呼ぶ）を叔父に持ち、叔父と共に働く。1892年、42歳の時、サンフランシスコに移住。サザンパシフィック鉄道の子会社の副社長となる。

1898年、ハンリーはロサンゼルスを訪れ、この街に鉄道を拡張させるべく、会社を設立。鉄道システムを拡大させる。その後、ロサンゼルス市内には、今では考えら

れないほど縦横無尽に鉄道が走り、その全長は1100マイルにも及んだ。電車は24時間走り、どこに行くにも便利で、市民の生活の足となっていたという。

ハンリーは、まだまだ発展途上だった南カリフォルニアのポテンシャルに目を付けた。土地を買い、電気会社、ガス会社、水道会社など、23個もの会社を運営し、ビジネスを拡大、巨万の富を築いたのだ。また、現在のハンティントン・ビーチ市の都市開発にも携わり、シティーに彼の名前が付けられた。

庭園と美術品、蔵書で知られるハンティントン・ライブラリーにも面白いエピソードがある。ある時、サン・ゲブリエル・パレーにある友人の牧場を訪れたハンリーは、このエリアと牧場の素晴らしさに魅了され、いつかここに住むことを思い描いた。それからしばらくした後、ハンリーが53歳の時、その友人が亡くなり、差し押さえられてしまった美しい牧場を買い取り、移り住んだのだ。それが現在のハンティントン・ライブラリーの場所となっている。

彼はここに邸宅と美しい庭を作った。60歳を機に、ハンリーはビジネスから徐々に手を引き、世界のめずらしい本の収集に専念するようになっていった。現在、ハンティントン・ライブラリーに所蔵されている本は、なんと800万冊以上。ハムレットの初版四つ折版を2冊所蔵しているところは、世界



豊富な仏像のコレクション(ノートン・サイモン美術館)



中庭のカフェの周りに彫刻がいっぱい(ノートン・サイモン美術館)



すべてが個人の持ち物ということに驚く調度品(ハンティントン・ライブラリー)

でここだけであり、リンカーンに関する書物の数も世界一を誇る。これらの貴重な本は、一般には公開されておらず、研究などに使われている。本のほかには、ヨーロッパの肖像画やフランスの家具なども展示公開されている。

アートは世界最大の コミュニケーションツール ~ Norton Simon

ハンティントン・ライブラリーと同じパサディナエリアにあるノートン・サイモン美術館。ここは、実業家ノートン・サイモンのコレクションを展示している。

ノートン・サイモンは、1907年オレゴン州生まれ。サンフランシスコの高校を卒業し、25年にロスアンゼルスへ来た。ここで板金の物流会社を設立し、ビジネスを拡大していく。29年、潰れかけていたジュース会社に7000ドルを投資して成功。これが、ケチャップやソースで有名な、後の Hunts Foods Inc.となる。その後、Norton Simon Inc.を設立し、さまざまな分野に投資や進出を果たした。彼が関わったビジネスの中には、マックスファクター化粧品やAVISレンタカーなどが名を連ねる。

ノートンは、アートが大好きで、「アートは世界最大のコミュニケーションツール」と考えていた。作品を集め始めた50年代は、ルノワールやゴーギャンなどの作品を、60

年代に入るとマスターと呼ばれる人々の作品を、そして70年代にはインディアンや東南アジアの作品を好んで収集した。

60年代には財団を作り、自身の収集した美術品の管理を手がけた。65年、新しくオープンしたロサンゼルス・カウンティ・ミュージアム・オブ・アートに作品の貸し出しを開始。そして74年には財政難で困っていたパサディナ・ミュージアム・オブ・モダンアートをサポートし、自身のコレクションを展示する場所とした。これが現在のノートン・サイモン・ミュージアムである。コレクションは、ヨーロッパの14世紀以降の作品からアジアのアート、モダンアートまで1万2000点以上。ヨーロッパの絵画は時代ごとに分けられていて、時代を追って見ていくと、宗教画や肖像画から、風景画、庶民の暮らしを描いたもの、そして抽象画などに変化して行く大きな絵画史の流れがひと目でわかる。

地下1階は、アジアの仏像と特別展示セクションで、アジアの仏像の展示数の多さは、世界でも有名インド、パキスタン、タイ、アフガニスタン、中国、日本など、さまざまな国の仏像がある。国や時代によって仏像のスタイルやデザイン、装飾品などがまったく違い非常に興味深い。また、日本のものでは、木版印刷の作品が大量に所蔵されており、期間限定の特別展示などで披露される。2010年から11



ジャン・ポール・ゲッティ

1892年12月15日～1976年6月6日
ミネソタ州ミネアポリス出身
アメリカの実業家、石油王

- 1903年 11歳の時、弁護士であった父がオイルビジネスで成功
- 1914年 大学を卒業後、父親のオイル採掘を手伝い、23歳の若さで100万ドルを稼ぐ
その後も、オイルの採掘に熱を入れ成功
- 1948年 サウジアラビアやイランの中東地域で石油開発
- 1950年 石油やホテルビジネスなど関連会社で40社を保有
- 1954年 自身の邸宅に隣接した土地に最初のギャラリーを建てるが、間もなく収蔵スペースが足りないことが判明し、邸宅から丘を下った私有地に2番目のギャラリーを建設する。これが現在のゲッティ・ヴィラ
- 1957年 『Fortune』誌で、世界一に金持ちとしてゲッティの名が上がる。資産総額7億ドル
- 1997年 ゲッティセンター開館。中世から現代までの西洋絵画が収蔵されている



ヘンリー・E・ハンティントン

1850年2月27日～1927年5月23日
ニューヨーク州オネオンタ出身
鉄道王、実業家

- 1869年 大陸横断鉄道の経営者の一人であった叔父、コリンズの下で働き始める
- 1898年 Los Angeles Railwayを買い取り、鉄道網の完成と周辺地域の開発と進展に精力を尽くし、1910年までに南カリフォルニアに全長2100キロの路線を網羅させる。この間の10年ほどで人口は3倍にも増えたという
- 1913年 コリンズ叔父の未亡人で、当時著名な美術収集家でもある同い年のアラベラと結婚
- 1916年 ビジネスの一線から退く60歳を超えた頃から、自身の書蔵と美術コレクション、邸宅の造園に専念する
- 1920年 ヘンリーのコレクションである、国で最も傑出した稀本や手書きの草稿など、卓越した収集品を納めた図書館が完成する
- 1927年 ヘンリー死去の翌年、夫妻の邸宅だった建物が公共図書館として一般に開放され、現在に至る



ノートン・サイモン

1907年2月5日～1993年6月1日
オレゴン州ポートランド出身
アメリカ人実業家

- 1907年 裕福なユダヤ系アメリカ人の家族に生まれる
カリフォルニア大学バークレー校在学中、板金流通会社を立ち上げ成功を収める
- 1927年 フラトンのつぶれかけたジュース会社に7000ドルを投資し立ち直らせ、新たな缶詰会社Val Vita Food Products Companyとして軌道に乗せる
- 1943年 Val VitaをケチャップでおなじみのHunt's Foodsに統合。当時は珍しかった、ファッション誌などへのカラー一面広告など、彼の積極的な広告戦略により、Hunt'sのブランドを広め、西海岸最大の食品の一つとなる。その後買収、統合を経て、現在はConAgra Foodsとなっている。
歴史、科学および芸術ロサンゼルス郡博物館の受託者として、彼の個人的なコレクションのほとんどを提供し、LA郡美術館の開発を支えた
- 1972年 ノートンサイモン美術館の前身であるバサデナ近代美術館に、4000以上のコレクションを寄付
- 1974年 バサデナ近代美術館を買い取り、ノートンサイモン美術館に改称。現在は、チベット、ネパール、カンボジア等の南アジアの絵画、彫刻、タペストリーのほか、19世紀印象派を中心とする西欧絵画が所蔵されている



グリフィス・J・グリフィス

1850年1月4日～1919年7月6日
グラモーガン、ウェールズ出身
ジャーナリスト

- 1878年 サンフランシスコの新聞特派員、報道記者として、鉱山を担当。取材を通じ広範な知識を得る
- 1880年 ロサンゼルスに移動。採掘投資で4000エーカーのランチョ・ロス・フェリッツ(メキシコの土地)の助成金の購入、巨額の富を得る
- 1896年 3015エーカーのランチョ・ロス・フェリッツの土地を、クリスマスプレゼントとしてロサンゼルス市に寄付。グリフィスパークと名付けられる
- 1903年 妻の殺人未遂容疑で有罪となり、2年間服役する。服役中は模範生と呼ばれ、出所後は刑務所改革のために講義活動を行う
- 1912年 2度目のクリスマスプレゼントとして、グリークシアターと科学ホール建設資金を寄付
- 1929年 グリークシアター開館
- 1935年 グリフィス天文台開館



時代ごとに綺麗に並べられていて、とても見やすい(ノートン・サイモン美術館)



クリエイティブに並べられた作品の数々(ノートン・サイモン美術館)

年にかけて行われた「Hiroshige: Visions of Japan」では、「東海道五十三次」が2セットと「富士三十六景」が展示された。

世界最大の公園をプレゼント
Griffith J. Griffith

最後に紹介するのが、グリフィス・パークでおなじみグリフィス・J・グリフィス。1850年、イギリス・サウスウェールズ生まれ。16歳の時にアメリカに移住し、23歳でサンフランシスコへ移住。ヘラルド・パブリッシングでレポーターとして勤務した。その後、サンフラン

シスコの新聞社アルタ・カリフォルニアで、この時代に拡大していた探鉱ビジネスの記事を書いていた。この時に、探鉱についての知識を身に付け、そのスペシャリストとなる。この経験を活かして、1880年に、探鉱シンジケートプロジェクトに加わり、メキシコで発見されたばかりのシルバー鉱山に投資。このビジネスが当たり、30歳前にミリオネアに。1882年、メキシコのビジネスを辞めロサンゼルスへ。ランチョ・ロス・フェリッツ(現在のグリフィス・パークやロス・フェリッツ周辺)に4000エーカーの土地を購入した。



たぐさんの映画に登場するグリフィス天文台

The Getty Center Los Angeles ゲティー・センター

住所: 1200 Getty Center Dr.
Los Angeles, CA 90049
TEL: 310-440-7300
入場料: 無料
パーキング\$15
※土曜日の5:00pm以降無料
時間: 10:00am~5:30pm(火~金・日)
10:00am~9:00pm(土)
定休日: 月曜日
Web: www.getty.edu

The Getty Villa Malibu ゲティ・ヴィラ

住所: 17985 Pacific Coast Hwy.
Pacific Palisades, CA 90272
TEL: 310-440-7300
入場料: 無料
パーキング\$15
土曜日の5:00pm以降無料(予約のみ)
時間: 10:00am~5:00pm(木~月)
※水曜日のみオープン時間が
日により異なる
定休日: 火曜日
Web: www.getty.edu

The Huntington ザ・ハンティントン

住所: 1151 Oxford Rd.
San Marino, CA 91108
TEL: 626-405-2100
時間: 10:30am~4:30pm(月・水~日)
定休日: 火曜日
料金: 大人\$20(週末\$23)
65歳以上\$15(同\$18)
学生\$12(\$13)
5歳~11歳\$8
5歳以下無料
毎月第1木曜日無料(オンラインで要予約)
アクセス: メトロゴールドライン・アレン駅から徒歩約30分。
または、そこからパサディナアーツバス10番Del
Mar & Allenストップ下車すぐ
Web: www.huntington.org

Norton Simon Museum ノートン・サイモン美術館

住所: 411 W. Colorado Blvd.
Pasadena, CA 91105
TEL: 626-449-6840
時間: 12:00pm~6:00pm(月・水・木・土・日)
12:00pm~9:00pm(金)
定休日: 火曜日
料金: 大人\$10、62歳以上\$7
18歳以下無料
毎月第1金曜日6:00pm~9:00pmは無料
アクセス: メトロゴールドラインメモリアルパーク駅から徒歩
約20分。パサディナアーツバス10番ミュージアム
前で下車すぐ
Web: www.nortonsimon.org



世界最大の公園から見えるダウンタウン(グリフィス・パーク)

グリフィスは、ヨーロッパの街に多く見られる広い公園に魅了され、自分の持つている土地をロサンゼルス市に公園として寄付することをお願いした。1896年12月16日、市民へのクリスマスプレゼントとして3015エーカーを寄付。グリフィス・パークは、アメリカ最大の市営の公園となった。ちなみに、グリフィス・パークは、市の公園として有名なニューヨーク、セントラル・パークの5倍の大きさを誇っている。

1912年12月、グリフィスは、またもやロサンゼルス市に大きなクリスマスプレゼントを贈る。グリフィス天文台建設のために10万ドルを寄付し、翌13年には、今度はグリーク・シアター建設のために、5万ドルを提供した。その後、19年に、それらのオープンを待たずにグリフィスは死去。グリフィス天文台は35年に、グリーク・シアター

は30年にオープンした。
現在グリフィス・パークには、グリフィス天文台、グリーク・シアターのほか、ロサンゼルス動物園、ゴルフ場、子供向けの小さなテーマパークなど、たぐさんの施設がある。日曜日に気軽にに行けるスポットとして、家族連れに人気の場所だ。

* * *

ロサンゼルスに名前を残した4人の富豪たち。彼らに共通して言えるのは、巨万の富を手に入れ、それを未来のために惜しげなく提供したという点。そのおかげで、私たちが気軽に世界屈指の芸術作品に触れることができたり、素晴らしい景色や美しい庭園を楽しむことができるのである。これぞアメリカ的サクセスストーリーではないだろうか。